



感謝 & ありがとう

校長 玉川 徹

「昨日行われた3校親善球技会に東小の代表として出場してきました。結果は『ハイスコア賞』で一番いい賞をもらうことができました。約1か月間、仲良しタイムや昼休みに校庭や体育館のバスケットコートを優先的に使わせてもらいました。全校の皆さんありがとうございました。また、お忙しい中審判をしてくださったり、当日給食を早くたべられるよう準備をしてくださったりしたたくさんの先生方と調理員のみなさんに支えていただき本当にありがとうございました。この経験を胸に、これからも東小6年生として頑張っていきます。よろしくおねがいします。」

6月7日(火)3年ぶりに開催された3校親善球技会に6年生が参加してきました。練習の成果を発揮し、素晴らしいプレーと立派な態度をみせてくれて頼もしく思いました。さっそく次の日(8日)には実行委員の2人が放送で全校に向けて感謝の言葉を放送で伝えました。この姿を見て「立派な最高学年だなあ～」と思いました。

私たちは、日ごろから「感謝の気持ち」を忘れてはいないか?と思うことがあります。今こうして、生活できていること。学校に来て学べること。友だちと楽しく学校生活を送れること。安全に登校下校できること。給食を毎日食べられること。朝ごはんは夕ご飯が食べられること。お風呂に入れること。洗濯をされた洋服や体育着を着られること。当たり前で生活できていることが、当たり前になってしまって「感謝の気持ち」「ありがとうの気持ち」を忘れていないか・・・と。

毎日の給食は約730食もの食事を出していただいています。栄養士、調理員さんたちは、暑い日も水の冷たい寒い日も当たり前のよう毎日つくってくれています。

6月15日には学校安全ネットワーク会議が開かれました。本当に多くの地域の方が、安全に登下校できるようにしてくれたり、あいさつをしてくれたり子どもたちを支えてくれています。

いろいろな人に支えられ、今ここに私たちはあるのです。

日々の生活の中で、感謝の気持ちを伝えられていますか?
今日は『ありがとう』を何回言いましたか?

『ありがとう』という言葉が出る前には、「心が温まる行為」があります。つまり、『ありがとう』という言葉は「美しい行い」を通して、「思いやり」と「感謝」の心をつなぎ、「してもらって良かったな!」「してあげて良かったな!」とお互いを認め合い、幸せな気分にする事ができる言葉だからこそ「美しい言葉の一つ」なのです。

『ありがとう』がたくさんある学校ほど、子どもも先生も幸せです。
『ありがとう』がたくさんある家庭ほど、家族のみんなが幸せです。
『ありがとう』がたくさんある地域ほど、地域みんなが幸せです。
『ありがとう』がたくさんあればあるほど、人は幸せになれるのです。学校も・・・。

